

グループワーク1

まちづくりのために「やりたいこと」・「意見」を出し合おう！

各グループ意見のまとめ

Aグループ

交通のこと

- 身近な生活圏での新たな交通手段の確立。
- 市民の協力で近隣の目的地まで格安で移送してくれる。
- 時刻表に囚われず、必要な時に利用できる。

情報の受発信のこと

- 市の方はたくさん情報発信しているはず。市民が関心を持って受け取るには。
- 日常的な情報取得の方法を強化してほしい。
- 若者がもっと市政に関心を持てるように Zoom でのウェビナー、SNS などを積極的に展開してほしい。

市民交流複合施設のこと

- 図書館の利用もできるが、学生が席を確保しているので高齢者にも居場所を提供してほしい。
- 施設を市民に開放して、日常的に利用できる、市民が籠らないで足を運べるようにする。

道路のこと

- 冬場の砂撒きボランティア活動を促進したい。
- 路面店前の雪かき意識の改革。

札幌のイメージのこと

- 住みたい街トップランキングを維持して、さらに周知していく。
- 道外の人々のイメージを高めたい。

みどりのこと

- 札幌のイメージを高めるみどりを増やしたい。
- 市内が花いっぱいになる活動をしたい。
- 街路樹の植え替えをしてほしい。(老木→若木)
- 公園内の老木の更新をしてほしい。加えて伐採木の有効利用も。
- 町内会のコミュニケーションの一環で植栽マスの花植えをしたい。

大通公園のこと

- 札幌市民の財産として、もっと公園利用できる、活用できる環境づくりをしてほしい。
- 公園利用者のマナーを改善してほしい。(犬のフンの始末など)

多世代交流のこと

- 老人と若者がコミュニケーションする場や機会を増やしたい。
- 孤立している高齢者がまちに出て若者と交流する機会を増やす。

- 高齢者が家から出て、交流する場所が少ない。
- 地区のコミュニケーションセンターの有効利用を考えたい。

町内会のこと

- 町内会の活動・交流をもっと深めたいと思う。
- 町内会と札幌市の関わり、連携出来ることを勉強したい。
- ゴミ拾いなど、街なかの美化を促進する活動を考えたい。

回覧板のこと

- 若者は回覧板を見ない。もっと関心を高める媒体づくりは出来ないか。

B グループ

教育のこと

- 寺子屋みたいなものが地域にあるといいな。

子育てのこと

- 社会を作っていくってくれる子どもたちが、伸び伸びと人とのコミュニケーションを取れる場への理解を大人が持つようにできる、社会としての子育て勉強会。

観光のこと

- 旅行で札幌に来ている方と市民の交流の場を作る。
- 市民が観光をして積極的にPRする。
- インバウンドに頼るのではなく、地域の人にもっと魅力を発信する。

イベントのこと

- ヨサコイの会場を減らすべき。

空き家のこと

- コミュニケーションの場などで活用する。
- 空き家をホテルに活用する。

公園のこと

- 子どもの祭りができるとうれしい。

除雪のこと

- 時差出勤を活用したボランティア除雪、活動時間をポイント還元。
- 地域で支える除雪。

地域活動のこと

- 町内会活動、高齢者見守り→新たな活動の仕方の模索。
- 子どもが遊んでいると「ウルサイ!!」と言われることも…。町内会などで子どもが大きい声で遊べる場所を作ってほしい。例えば曜日を決めて自由に遊べるとか。

市政への身近な問題の提案の促進について

- まちづくりセンターの目安箱(サークル活動での利用者の意見を吸い上げられる) → 高齢化でデジタル発信だけになると意見が出にくいのでは。

C グループ

道路整備・道路計画のこと

- 春夏秋冬を通じて、移動時間が少ないようにできないかな？
- 街灯が無いところがあるので増やしてほしい。
- 街灯のことは町内会に聞くべきか、市に聞くべきなのだろうか？
- 除雪は昔に比べて良くなったと思う。
- 凍結路面は技術的に改善できないのだろうか。アスファルトの改善など。

公園のこと

- 公園のトイレは和式が多いので、洋式を増やしてほしい。
- 石狩市の公園のトイレにはトイレトペーパーがあるが、札幌はほとんどない。特に子どもには便利だと思う。

公共交通機関・地下鉄・バス路線のこと

- 市の中心に向かう路線が多くて、遠回りに感じる地域も多い。幅広い路線を展開できないか。
- 乗り換えの仕組みのロスが多い。
- 清田区は軌道系の公共交通が無いうえに、地下鉄までのバス本数が少ない。
- バスの待ち時間が長くなりがちだが、町内会でできることはベンチを設置することくらい。
- 地下鉄は麻生から屯田まで延伸してほしい。

公共施設の配置のこと

- 保健センターが一つしかなく遠い(北区)。子どもづれで屯田から北 24 条にある保健センターに行くのは負担が大きい。

交通安全について

- 危険な道や時間帯情報を集めて、改善を訴える場をつくる。

町内会とボランティアの仕組み

- 児童の通学見守り(旗振り)ボランティアは大切だが高齢の方が多い。お手伝いできそうだと思うのだが、町内会に問い合わせるのは気が引けてしまう。
- 町内会に向けて「ボランティアをします」とは気軽には言いにくい。組織も多いのでどこに言えば良いのか不明。
- まちづくりに参加したいけれど、言い出せずにいる人はいる。
- ボランティアしたい人を募集してはどうか。
- ボランティアのしやすい窓口を札幌市で設置する。

高齢者や子どもを地域で支える仕組みが必要

- 町内会で高齢者の食事づくりをしている。週一で集まって町内会館で実施して

いる。

- 孤独死の防止を真剣に考えないと大変なことになる。
- 高齢者宅の除雪は大きな課題になり始めている。福祉除雪もうまく回っていないので、除雪アプリの活用など積極的な対策が必要。
- 児童の学力差や生活の質の差が問題。基礎的な学力を支えるボランティアが必要。高齢者の活躍の場にもなる。
- 町内会では、子どもの学びなど専門性の高いボランティアをしにくいところがある。

女性の雇用のこと

- 子育てと就業を両立するためのパートの充実、雇用の安定。
- 勤務回数限定のパートなどができるような仕組みが必要。
- ワークシェアリングなどができるとよいのでは。

顔の見える関係／人とのつながり

- 声をかけると不審者と思われる世の中は寂しい。
- 声かけや挨拶で顔が見えるくらいの関係性はとても大切。

D グループ

自然のこと

- 植木を植え、花を育てる。
- もっと花や緑を増やしたい。
- 動物の散歩。フンの始末をきちんと。
- 川の清掃。
- 人だけでなく動物（カモなど）も住みやすいまちに。
- 動植物出現情報の共有。
- 場所限定写真コンテスト。
- シマエナガを（こっそり）探せ！（専門家にも意見を聞く）

交通のこと

- 自転車・自動車のマナー向上。

札幌への転入者

- 市民自治参加へのススメ。
- 転入の方法などをわかりやすくまとめる。

町内を超えたご近所づきあいについて

- 怖くない町内会づくり。
- マンションの住人・近隣マンション同士でも顔見知りになる集い。
- 課題を細かく切り分けて可視化→できる人ができる時だけ参加。
- （町内のことを）できる日・人などを可視化し、情報を共有する。

防災のこと

- まわりの人とのつながり。

- 自主防災。
- 地域に自主防災計画はある？ちゃんと機能してる？

イベントごと（というか展示会）

- 展示物・催し物があれば。
- 大勢で盛り上がるのが無くても（個人で見ても）楽しめるもの。
- 自然や鳥の写真など、札幌ならではのもの。
- 若い人ならアニメ・漫画なども。
- 新しい作品も古い作品も、世代を超えて楽しめるものを。

区を盛り上げる活動

- 区の魅力自慢を各区が競うイベント。
- 冊子「わたしたちの区」を作る。
- 子どもだけ・大人だけではなく、地域の人みんなで作りあげる。

E グループ

高齢者、障がい者のこと

- 冬の買い物。外出で高齢者や障がい者が困っている。
- 道路整備。
- 野菜直売所。
- 高齢者や障がい者になっても行きたいところに行けるようになればよい。
- 近所のちょっとした手助けがあれば外に出やすい。
- バリアフリーの無い施設がある。出
- 出かけやすいハード（ノンステップバス、エスカレーター、エレベーター）があるとよい。
- 心のバリアを低くする取組。交流の場。
- 認知症対策になるため、子どもと交流しながら料理教室等をやってみてはどうか。
- 買い物に自分で行ける（買い物バス、お出かけバスなど）。
- ボランティアの敷居が高い。

雪かき・除雪

- 雪を捨てる場所が少ない。融雪溝を多くしてほしい。
- 雪かきのやり方講座（転勤者向け）。

子ども、一人親、少子化

- 職業体験ができる場の提供。
- 病児、病後保育の拡大と情報提供。
- 安心して子育てできる給付金制度を増やす。
- 今よりも手厚いサポート。
- 不妊治療に対する金銭的・精神的サポート制度。

豊平川河川敷

桜並木を作る。イベントや市民の憩いの場となる

公共施設（公園・図書館・運動場・森林整備・休耕地）

公園のごみが多い。火ばさみやごみ袋等があればごみ拾いが出来る。

遊具の貸し出し（ボール等）。

伐採木の配布。

DIY 体験。

自然対策イベント。

清掃イベント。

地域対策(イベントの実施)

丘珠飛行場やつどーむ使用して、物販・芸術・イベントの開催。

グループワーク 2

市政への市民参加促進のための取組を出し合おう！

各グループ意見のまとめ

※「●」はグループ内のシール投票の得票数（第2章-4.グループワークの流れ 参照）

A グループ

■【やりたいことに係る問題意識】

<市>

- 多世代の触れ合い・交流の機会がいつ、どこであるのか情報取得できない。
- 気付いた時にはイベントは終わっていることが多々ある。
- インターネット上の情報取得はお年寄りには不得手。逆に若者は紙媒体には馴染みがない。
- 広報さっぽろは細かな情報まで網羅できていない。さっぽろ 10 区には割と細かい情報があるので活用できないか。
- STV の札幌市の情報はあまり知られていない。

■多世代が等しく使いこなせるツール＝テレビや動画をうまく活用する。(●●)

<市民が心がけるべきこと>

- Zoom、Youtube などの番組での情報発信に対して、気軽にコメントする。

<市が行うべき取組・工夫>

- ゴールデンタイムの一枠など、みんなが視聴する時間帯（ゴールデンタイム）に札幌市の番組を作る。
- 札幌出身のタレントなどを起用する。
- 行政札幌市としての固い番組ではなく、秋元市長が Youtuber として配信するチャンネルを作る。(●●●●)
- 市長の番組に市民がコメントすると双方向のつながりが出来るのでは。
- 出前講座やワークショップの様子を配信する。(●)
- 区、自治体間のコラボなど、普段はキャッチできない情報を配信すると、市民の学びにもなる。

■教育のカリキュラムを活用して多世代の交流を生み出す。(●●)

<市民が心がけるべきこと>

- 若者が高齢者にスマホやパソコン等のツールの使い方を教える。

<市が行うべき取組・工夫>

- 高校生、大学生が情報を伝えてあげる、教えてあげる。
- 高校生、大学生が地域の困りごとを聞く、解決する手伝いをする。
- 市立高校などのカリキュラムの一環として交流機会を創る。(大通高校のちえりあ講座のようなもの) (●)

■情報の中継点として学校を活用する。

<市が行うべき取組・工夫>

- 回覧板だけに頼らずに、学校にプリントを配布すると、子どもから親へ情報が伝わりやすい。
- 市からの発信を町内会に行う。

■情報発信に企業が協力する。(●)

<市民（企業）が心がけるべきこと>

- 企業の協力で市民に対して、各企業が関連する分野の市政に係る情報を伝える場所や機会を提供する。
- 大型スーパーや公共交通機関の駅や車両に情報発信媒体を載せる（ポスター等）。

■町内会とPTAの連携から情報共有、つながりを深める。

<市民が心がけるべきこと>

- 町内会とPTA活動の連携・連動を進めることで、時間に制約のある子育て世代、子ども自身も町内会活動への関心を高めることができないか。

■市民と行政の交流機会を日常化する。(●●●●)

<市民が心がけるべきこと>

- まちづくりセンターの運営に関わる、支援する。
- ワークショップ参加者がバトンリレー形式で他の参加者に呼び掛ける。

<市が行うべき取組・工夫>

- まちづくりセンターを市民に身近なものにするために、地域に運営委託する。細目にワークショップ等の意見交換、交流機会を設ける。

B グループ

■子ども達に関心を持てるように！(●●●●●●)

<市民が心がけるべきこと>

- 学校や学童などに市役所の職員が行く。
- 近所の人とのコミュニケーションをとる。あいさつをしっかりとるなど。

<市が行うべき取組・工夫>

- 市政について身近に学ぶ機会を作る。学校で出前授業。
- キャラクターを使ってかわいい目を引くポスターなどにして、小さい子から大人まで、何気なく見ちゃうようにする。→子どもが見ると親も見る。

■情報発信の方法（●●●●）

<市民が心がけるべきこと>

- SNS で良いと思うことは広げていく、オススメする。
- 既存の情報ツール（広報さっぽろ、テレビ）をチェックする。情報難民にならないように関心を持つこと。

<市が行うべき取組・工夫>

- ツイッターを利用する→一つの意見から新しい意見が生まれるような（WS もそう）。
- 10代、20代などの若者に対して SNS の活用（ツイッターetc）。
- インスタグラムで、画像入りで。
- 若者は Facebook を使わない。

■高齢者⇄若者 交流機会を！（●●●）

<市民が心がけるべきこと>

- コンビニや自宅で余った食材の活用（子ども食堂）。
- 子ども食堂などで協力する←市は補助。

<市が行うべき取組・工夫>

- 高齢者と若者とを交流させる機会を増やす。
- 区の会館などで（大きくではなく）近くに住んでいる人が自由に使える場所を作ってほしい（年関係なく）。
- 児童会館等だけでなく、一人親世帯の子を見守れる、食事もサポートできる体制は作れないか？
- 子ども食堂。

■広く意見を聞くために（●）

<市民が心がけるべきこと>

- 町内会活動へのより一層の協力と意見発信。
- 情報収集をして、必要としている人に少しでも広める。

<市が行うべき取組・工夫>

- 高齢者のためにも何でもデジタル化しないで。
- 駅や商業施設への募集掲示を広める（ポスター）。
- コンビニレジ（ポスター）で意見募集の掲示をして、QRコードで参加（現役、若い世代の参加促進）。町内会に入らず広報見る人少ないので。
- まちづくりセンターに目安箱を設置。

■行政の姿勢「丁寧な説明」「人と人との対話」(●)

<市民が心がけるべきこと>

- 声を上げ続ける。だまっでは変わらない。

<市が行うべき取組・工夫>

- 地区センター位の規模でオープンハウスを開催して、説明・質問を受けて理解を得ての提案を受け付ける。※補足：大きな会場では声の大きい人ばかり発言するので、皆が質問をしやすい場づくりが必要。
- 身近な問題をしっかり理解（メリット・デメリット）。
- ワークショップやパブコメが市民の意見を聞きました、というアライバイづくりになっていないか。
- 結果だけではなく、結果に至るプロセスも公表してほしい。

Cグループ

■市は今後の町内会のあり方や方向性を示し、市民自身はまちのあり方を意識する。

<市民が心がけるべきこと>

- 市に頼らず、地域の一員として担う意識を持つ。
- 周りに関心を持つ。

<市が行うべき取組・工夫>

- 札幌市として、今後の町内会のあり方を推奨する（時代に見合うものに）。
- 町内会とは別の地域コミュニティを新設する整備。

■町内会回覧板を活かす(●)

<市民が心がけるべきこと>

- 高齢者にも読みやすい紙媒体である回覧板は価値がある。
- 回覧板をもっと見る。見なくてもいいやではない！
- もっと読ませる工夫も必要。
- 情報交換もできる回覧板にする。
 - ・住民の声を書くことができるページをつくる。(●●)
 - ・まちの中でできるボランティアを募集する。
 - ・自分がボランティアでできそうなことを伝える。
 - ・不要品などの物々交換もできる場。
- 情報交換を回覧板でするにはセキュリティが課題。

<市が行うべき取組・工夫>

- 町内会回覧板の活かし方や見直し方法について、バックアップする。

■市政やまちづくりのことをもっと積極的に伝える

<市民が心がけるべきこと>

- 「広報さっぽろ」以外のPRも必要。見ない人は絶対に見ない。(●)
- テレビならば目に付きやすい。見たら積極的に参加しやすい。
- 広報やPRにTEAM NACSなど若者が共感できる人に出演してもらう。

<市が行うべき取組・工夫>

- 地下鉄やバスのポスターで周知することで、市民は通勤時間や買い物などのスキマ時間に目に入れることができる。
- ワークショップなど市民の意見を聞く場所をテレビで案内する。

■ 市政への意見の伝え方

<市民が心がけるべきこと>

- 積極的に意見を言う。
- 言葉づかいに気を付ける。

<市が行うべき取組・工夫>

- TEL 番号などの相談先を明確にする。(●)
- 市の広報活動もパソコン、スマホを活用する。
- 高齢者には難しいパソコン・スマホなどの使用を促す。
- 高齢者にはタブレットを貸し出す仕組みがあると良い。(●)
- LINE ですぐ連絡できるようにする。

■ ボランティアやまちづくりをしたい人たちをつなげる

<市民が心がけるべきこと>

- ボランティアのメリットをもっと伝え合う（認知症予防、健康寿命が長い、肥満が少ないなど）。
- 事故などに備えたボランティア保険制度の活用推進。
- 自分ができるところを伝える。(●)
- 市民が自分からできることに参加する。
- 支援を必要とする人たちに速やかに援助を届ける仕組みを町内会で作る。(●)

<市が行うべき取組・工夫>

- 地域共通のボランティア登録システムを設置する。
- 区単位でボランティアネットワークを立ち上げる。(●)
- 町内会ごとにボランティア募集・立ち上げできるアプリを用意する。
- 気軽に登録できるように情報発信をする。
- できることとしてほしいことが情報交換できる場をつくる。
- ボランティアのコーディネートをしている人たち、する人たちを支える仕組みを作る。
- 「広報さっぽろ」にボランティアの情報を多く載せる。特集を増やす。
- ボランティアの応募に際して、いろいろな分野を設定して細かく展開する。できること・やりたいことから参加しやすくするために。
- 子どもの基本的な学び（漢字や計算など）を支えられる人材はいて、必要とされているが、互いに出会う場が少ないのではないか。(●●)

■市民とともにコンパクトで濃いバス路線の見直しを行う (●)

<市民が心がけるべきこと>

- 現状だけでなく将来を見据えた形で、バス路線見直しのアンケートに参加する。(●)

<市が行うべき取組・工夫>

- バス運行に対する補助金・制度の見直しをする。
- 乗車人数の少ない時間帯は大型でなく、中型・小型のバスを運行するなど。(●)
- 公共路線（バス・地下鉄）などの希望を市がアンケートで把握し、バス会社へ希望を届けて展開を考える。(●)

D グループ

■双方向の情報のやり取り (●)

<市民が心がけるべきこと>

- 市民もまちづくり活動に興味を持ち参加する。そしてそれを SNS などで広める。

<市が行うべき取組・工夫>

- サイトの開設（掲示板など）。
- 各分野の専門サイトを作る。
- 広報アンケートを月イチなど定期的に発信したら習慣化する人もいるかも（広報さっぽろに載せる、回答送信後にお役立ち情報を載せる、結果を公表する）。
- 市のサイトを見やすくし、単に「わかりにくくて困っている」意見を減らす。(●)
- 広報・CM・SNS などを使い、広い世代に見えるようにする。
- 札幌市の公式 Twitter とは別のアカウントを作り、そこでアンケートや投票を行う。(●)
- 日頃からアンケートを行い、投票できるようにする（Twitter の機能を使う）。
- ネットを使えない人には、駅やスーパーなどに投票用紙を置いておく。
- 言うだけ言ってみる「お気軽で意見投稿」（Web フォームやハガキなどで）。
- ナイス投書 10 名様に商品プレゼント（市の施設入場券など）。(●)
- 夕方のバラエティ番組で意見などを募集してもらう。
- まちづくり活動を呼びかけるポスターを作る。
- 参加した体験などを広く伝える（SNS のフォロワー機能など）。
- 情報化社会なので、「Twitter」「Instagram」「Facebook」などを有効活用すれば、幅広く多くの人に伝わると思う（「#」ハッシュタグなど）。

■地域（区）をもっと身近に（●●）

<市が行うべき取組・工夫>

- 区の魅力を雑誌・ポスターで教えてあげる。
- 市のまちづくり自体をブランディングする（「自治」「まちづくり」などの表現をもっとソフトにするなど）。(●)
- 社会科や図工などの授業で子どもからアイデアを出させ、コンテストなどに応募させる。(●)
- 「じっちい」「もっちい」をもっと可愛くデザインする。(●)
- 区の特徴をわかりやすく発信する（区の魅力を住民に伝える）。

■マナーの向上（●●）

<市民が心がけるべきこと>

- 市民も市からの呼びかけや注意を聞く姿勢をとるようになる。
- 散歩をするときに袋を持参し、気が付いたごみを持ち帰るようにする。

<市が行うべき取組・工夫>

- 環境保全の取組への意識を高める。
- 自然を大切にする意識を高める（自然があってこそその社会だから）。
- 回覧板などで呼びかける（地域の美化、ゴミ拾いの参加など）。
- 駐車違反の見回り時間を不規則に（時間外に停める人が多い）。
- 公園の注意事項を書いた看板などの数を増やす。
- 数を増やして、見る機会を増やす（より目につくようにする）。
- 張り紙やポスターなどで啓発する。
- 小さいお子さんやお年寄り、マナーに理解がない人を対象にマナーに関する講習を行う。

■市外の方からもわかりやすく

<市が行うべき取組・工夫>

- あらゆる手段を使って情報提供。
- ネットだけだと探しに行かないとわからない。テレビや紙媒体も活用する。
- 札幌市の転入者に対して、市政への参加やまちづくりへの参加を促すような情報を提供する。
- 目につく場所に掲示する（地下鉄の掲示板がいつも空いているので、そこを活用）。
- 市外の方が魅力的に感じるように。情報取得がやりやすくなるように。
- 市民が興味ある分野に特化・分類分けした状態で情報発信する。

■人とのつながり

<市民が心がけるべきこと>

- 明るく近所の人とあいさつする。

<市が行うべき取組・工夫>

- コロナ禍であっても人とのつながりは絶やしてはいけない。とにかく孤立させないこと。
- 人付き合いの距離を縮める。
- 地域の人とのつながりを普段から意識する。
- いざというときの助け合い・情報のやり取りにつながる。

E グループ

■ まずは自分でやってみる

<市民が心がけるべきこと>

- 高齢者、桜好きが積極的に参加する。

<市が行うべき取組・工夫>

- 桜の苗木を植えるイベント。市広報などで知らせ、ボランティアを募る。

<市民が心がけるべきこと>

- ルールを守り安全を確保して、皆が安心して使用する。

<市が行うべき取組・工夫>

- 公共工事（地下鉄、ドームを繋げてほしい）。
- 流雪溝、融雪溝を造る。

■ 担当を明確にする

<市民が心がけるべきこと>

- 参加時、自分たちも一部費用を負担するべき。（●）

<市が行うべき取組・工夫>

- 道・市・区の役割範囲を示す。（●●●●）

■ 楽しんで、積極的に参加する（●）

<市民が心がけるべきこと>

- 各町内から高齢者、料理の得意な人を募り、子どもとの交流を図る。

<市が行うべき取組・工夫>

- 講師や場所、材料を提供して参加者を募る。

■ 「アメ」も必要

<市が行うべき取組・工夫>

- 市独自のポイント制度（参加したら加算）。（●）

■意見を伝える（話をするきっかけ）

<市民が心がけるべきこと>

- 意見提案の積極的発信（伝える努力）。
- 意見を発信する時は「よりよいまちづくりをする」という意識を持って。
- 否定的な意見よりも未来につながる意見を出すようにする。

<市が行うべき取組・工夫>

- 大型商業施設でワークショップを開く。（●）

■意見を伝える（早く、直接）（●●）

<市が行うべき取組・工夫>

- 市長と zoom 会議。（●）
- line で意見募集する。（●）
- 情報収集・予約などの電子化(web 活用)。 ※tel、はがきは双方手間（●）
- 郵送のアンケートはやめてインターネットで回答できるようなシステムを増やす。

■様々な媒体で情報を得る（●●）

<市民が心がけるべきこと>

- 広報さっぽろを読む。
- 自分が良く使う情報収集ツールの明示。
- 町内会への参加。回覧の閲覧。
- 各地域の特徴。直売所・雪かきなどやっていることを照会する。

<市が行うべき取組・工夫>

- 情報を探さないと情報が入ってこないため、発信力をもった媒体を活用する。
- 1つのイベントに対して、複数媒体でのアナウンス。（●）
- 10区で実施しているイベントなどの集約掲示。（●●●）
- 一般的な広報に加えて、各区の取組をTV広報で紹介する。
- 継続的に実施していることを取り上げる。